

二〇二三年度入学試験問題

国 語

試験日 二〇二三年二月四日(土曜日)

開始時刻 午後一時

終了時刻 午後二時

注 意 事 項

- 一、この冊子は十九ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明などがあつた場合には申し出てください。
- 二、解答はかならず解答用紙(マークシート)の指定されたところの番号をマークしてください。
- 三、解答用紙の受験番号欄には、かならず受験番号(七ケタ)を記入し、その番号をマークしてください。
- 四、解答用紙への記入は黒鉛筆を、解答を消す場合は、プラスチック消しゴムを使用してください。
- 五、解答用紙は試験が終了したら、かならず提出してください。
- 六、試験室内で配付された問題用紙は、持ち帰って結構です。

一

次の文章を読み、後の問に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

あの言葉に救われたという経験はおそらく誰にでもあるだろう。言葉が癒しの力をもつことは誰でも経験的に知っている。一方で、言葉が時として人を傷つけるものであることもわれわれは知っている。誰かの心ない一言に傷ついた経験、その傷を抱えながらいつかそれが癒えるのを待った経験もおそらく誰にでもあるはずである。言葉は人を傷つけもすれば癒しもする。では、なぜ、言葉はそのような力をもつのか。【I】

言葉は世界をつくる。それがこの問いに対する端的な回答である。われわれは言葉を頼りにして自分が置かれた現実を理解している。たとえば、誰かの厳しい言葉に接すると、自分が何かまずいことをしたのか、**A**、自分のせいではなくて単に相手の機嫌が悪いだけなのかなどと思いを巡らす。前者であれば、自分が何かまずいことをしたという現実が構成され、後者であれば、特に自分に落ち度はなく相手がたまたま機嫌が悪いだけだという現実が構成される。われわれは言葉を頼りにして、現実を解釈し構成している。もちろん、言葉だけでなく、**A** といった非言語的な要素も重要な役割を果たす。

それらが総合的に判断されて現実が構成されるのだが、言葉には言葉だけがもつ特権的な力がある。それは、現実を定義する力である。【II】

たとえば、親が子どもに、「おまえはなんて意志が弱いのだ」と言ったとしよう。子どもは、その言葉を聞いて自分は意志が弱いのだと思うようになる。子どもは親と比べて圧倒的に経験も知識もすくない。そもそも、「意志が弱い」とはどのような状態を指すのかもよくわかっていない。そうした状況で、親の言葉は現実を定義する強い力をもっている。もちろん、子どもも思春期ぐらいになるとそれなりの経験や知識が身についてきて、そうした親の定義を跳ね返し、自分なりの定義ができるようになる。このように考えると、**(1)** 反抗期とは言葉による現実定義能力の成長の証^{あか}しと考えることもできる。優位な立場に立つ者の言葉は一般に現実を定義する力をもっている。言葉は社会的地位や立場と結びつくことでより大きな力を発揮する。【III】

言葉のもつ力でもうひとつ忘れてならないのは、数多くの出来事をまとめる力である。個々の出来事においては、その時々

の感情など非言語的要素がからまっていて、ひとつの言葉ではうまく表せないような場合でも、振り返ってみてそれらを
イ とき、そこにひとつの意味が与えられる。たとえば、うまくいかないことが続いた日々を思い出して、あれは
 「不運」だったと考えるか、「試練」だったと考えるかで過去の意味は変わってくる。²⁾このとき、個々の出来事に伴う細かな
 差異は捨象されて、大括りの意味が与えられ、雑然とした出来事の羅列がひとつの引き出しに整理される。【IV】

さて、以上みてきた言葉の力は、ひとつの単語やひとつの文章レベルの短い言葉を念頭に置いたものだったが、いうまでも
 なく言葉はもつと長い形式でも存在する。物語という形式がそれである。多くの言葉が連なってひとつの物語を構成すると
 き、それはさらに強い力を発揮する。物語に感動して人生観が変わるといふことがある。あるいは、そこまでいかなくとも、
 元気が出たり、逆に、悲しい気持ちになったりすることもある。ここでいう物語はBフィクションに限らない。実際に起
 きた出来事を綴ったノンフィクションや歴史叙述、あるいは、あるひとが語る経験談や人生物語なども含めて、いわゆる物語
 形式をとるものすべてを含めて考えてよい。【V】

言葉は単語でも文章でも、そして、たくさんの文章を連ねた物語においても、それぞれに人を動かす力をもっている。で
 は、言葉による癒しという問題を考えるとき、これらはどのような関係にあると考えればよいか。

C、「がんばったね」というたった一言に救われることがある。「しばらくはつらいだろうが、これもひとつの試練と
 考えて何とか乗り越えようと思う」という誰かの言葉に感動することもある。これら二つの例の場合、それぞれは確かに短い
 言葉にすぎないのだが、実は、これらの言葉には共通点がある。それは、時間軸を意識させるといふ点である。「がんばった
 ね」という言葉は、がんばるといふ行為を過去に行った結果、現在があり、未来があることを言外に伝えている。また、「ひ
 とつの試練と考えて」の方は、現在のつらさを乗り越えたところの未来が展望されている。いずれも、ある一時点のみを切り
 取るのではなく、ある一時点を時間軸の流れのなかに位置づけている。D、これらの短い言葉も実は短い物語となってい
 る。より正確に言えば、物語の一部、あるいは、物語の一場面として長い物語を想起させるものとなっている。このように考
 えると、言葉の癒しの力とは癒しの物語を想起させる力と言い換えることができる。なぜ、ほんの短いひとつの言葉が人を癒

すことがあるのかといえは、それは、傷つきから癒しへと至る物語が存在することを垣間見せるからといふことができる。⁽³⁾

ここで重要なのは「垣間見せる」という点である。こうすれば癒されるというマニュアルのような道筋が示されるわけではない。**E**、そのようなマニュアルがあればそれはそれで役に立つのだろうが、そのようなものが見つかからないからこそ、われわれは苦しむ。そして、そのようななかで出会うひとつの言葉や物語にわれわれはかすかな救いを見出す。**ウ**が、とにかく救いの物語がありうるという感覚とでもいえばよいだろうか。明確な筋書きが見えるのではなく、物語が成立するかもしれないという予感のようなものが湧き上がってくるのである。

(野口裕二『ナラティヴと共同性 自助グループ・当事者研究・オープンダイアログ』より)

問一 空欄 **A**、**E** に次の①～⑤の語をすべて一度だけ用いて補ったとき、空欄 **B**、**D** に入る最適な語を選び、その番号をマークしなさい。解答欄は **B** が **1**、**D** が **2**。

- ① つまり ② いわゆる ③ たとえば ④ もちろん ⑤ あるいは

問二 空欄

ア

に当てはまる最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

3

。

- ① 相手の表情や態度
- ② 自分の態度や服装
- ③ 相手の服装や表情
- ④ 自分の表情や態度
- ⑤ 相手の地位や服装

問三

傍線部(1)「反抗期」とあるが、本文中において、この言葉はどのようなことを意味するのか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

4

。

- ① 子どもが経済的にも精神的にも親から離れて、自尊心を持ち始めたことを意味する。
- ② 現実を抽象的な言葉で捉えようとする親に、子どもが抵抗し始めたことを意味する。
- ③ 自分の言いなりになる親に、子どもが一時的な気持ちをおつけ始めたことを意味する。
- ④ 子どもが言葉で現実を自分なりに定義し、それを親に表明し始めたことを意味する。
- ⑤ 自分と同じ意志の弱さを持っている親に、子どもが嫌悪を覚え始めたことを意味する。

問四 空欄 に当てはまる最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① 包摂する
- ② 表象する
- ③ 分析する
- ④ 回顧する
- ⑤ 総括する

問五 傍線部(2)「過去の意味は変わってくる」とあるが、それはなぜか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① 個別の出来事は言葉により容易に定義されるが、その意味は時間が経過することでおのずと変わるから。
- ② 実際に起こった出来事は変わりようがないが、意味は出来事をどのように秩序づけるかによって変わるから。
- ③ 出来事は雑然と並べられているだけであり、意味はその出来事を論理的に捉え、定められるものであるから。
- ④ 現実と言語と非言語的要素とでできているが、意味は言語だけを用いることで定められるものであるから。
- ⑤ 世界は様々な解釈を許容するものであるが、意味はそれを絶対的なものに固定化する力を持っているから。

問六 傍線部(3)「垣間見せる」とあるが、これはどういうことか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしな

さい。解答欄は 7。

- ① 傷つきから癒しへと至る物語がマニュアル通りに作れるわけではないが、創作することは可能であるということ。
- ② 傷つきから癒しへと至る物語が現実には形になって存在していないが、自分の頭の中には存在しているということ。
- ③ 傷つきから癒しへと至る物語が存在しないと考えるととても苦しいが、存在を確信するだけで救われるということ。
- ④ 傷つきから癒しへと至る物語が長い物語にはならないかもしれないが、物語の一場面として存在するということ。
- ⑤ 傷つきから癒しへと至る物語が顕示されているわけではないが、その存在の可能性を示唆してくれるということ。

問七

空欄

ウ に当てはまる最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 8。

- ① いつ癒しの物語を作るかはわからない
- ② どのような時間軸を用いるかはわからない
- ③ 誰が現実を解釈し構成するかはわからない
- ④ どのような筋書きになるかはわからない
- ⑤ 誰が救いの物語を作るかはわからない

問八 次の一文を挿入する場所として、最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

これも、言葉のもつ定義能力の一例と考えることもできるが、個別の定義ではなく、複数の出来事をまとめる力として
区別しておこう。

- ① I
- ② II
- ③ III
- ④ IV
- ⑤ V

問九 本文の内容に合致するものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① 物語とは起こった出来事ありのままに記したのではなく、作者が想像力を働かせて創作したものである。
- ② 現実世界は誰が見ても同じであるが、その世界をどのように捉え、言葉で表現するのは人によって異なる。
- ③ 言葉は人を傷つけることも人を癒すこともできるが、それは言葉が世界をつくる力をもっているからである。
- ④ 物語を作るマニュアルがあれば便利なものではあるが、ないことにより作る醍醐味だいごみを味わうことができる。
- ⑤ われわれは言葉の力だけを頼りに、自分が置かれている現実を構成したり理解したりしなければならぬ。

二

次の文章を読み、後の問に答えなさい。なお、設問の都合上、表記を改めたところがある。

今日、われわれは、必要なモノ、価値あるモノのほとんどを、商品交換によって得ている。貨幣を用いて商品（としてのモノ）を購入するという形式によって、である。商品交換の原初形態、その起源は何か。物々交換である……と一般には言われている。物々交換から、成熟した商品交換へはどのように変化したのか。その論理はシンプルだ。物々交換が成立するためには、「欲望の二重の一致」が必要になる。すなわち、私が欲する物を所有する他者が、まさに私が所有する物を欲していなくてはならない。この条件は、しかし、稀まれにしか満たされない。私が他者が所有する何かを欲していても、他者が私の所有物に関心をもつとは限らない。この不都合を克服するために、人々は、交換の媒体としての貨幣を発明した。私は、他者の所有物を得るとともに、その他者に貨幣を渡す。他者は、その貨幣によって、自分が欲しているモノを所有する別の他者から、そのモノを得ることができる。貨幣を用いた商品交換は、迂遠うげん化された物々交換である。言い換えれば、貨幣による商品交換は、本質的には物々交換であり、貨幣はその **A** に過ぎない。経済学の教科書には、このような「物語」が記されている。

商品交換の源流は物々交換であるとするストーリーは、経済学にとって最も重要な「神話」である。近代的な意味での経済学の始祖アダム・スミスが、この物語を明示的に語っている (Smith 1776 = 2000-01)。以降、経済学にとって、この神話は、創設的な意味をもつ物語となった。もともと、スミスがひとりでこの物語を無から創造したと言ったら、それは言い過ぎである。スミス以前にも、このような神話へと方向付けられた議論を展開した思想家がいた。そもそも、アリストテレスが、『政治学』の中で、この神話の予兆になるようなことを語っている (アリストテレス 2018)。アリストテレスによれば、最初は家族は必要なものをすべて自分で生産する自給自足の生活を送っていたのだが、やがて、ある者は農業にジューウジヂュウジし、ある者は酒造りに特化し、……といった具合の専門化が生じ、互いに交換し合うようになる。そこから貨幣が生まれたというのがアリストテレスの説であり、 **B**。

いずれにせよ、商品交換は本来は物々交換であるという神話は、経済学を成り立たせている基本的な公理のようなものであ

る。そのことは、今述べたような、単純化された「経済史」の物語にだけではなく、経済学の理論にもはっきりと現れている。たとえば、「セイの法則」がそれである。アダム・スミスより少し後の世代に属するフランスの経済学者、ジャン・バティスト・セイの名を冠するこの法則は、「ア」は自らに対する「イ」を創造する」という命題で要約される。つまり、「ア⇌イ」という恒等式が成り立つ、というわけである。この命題は、物々交換で考えれば、自明に正しい。同じものが、交換当事者のどちらの観点から捉えるかで、供給としても需要としても捉えられる。つまり、需要と供給は同じものなのだから、この恒等式は一種のトートロジーである。この法則を商品交換にまで拡張するということは、「ウ」が介入する商品交換を本質的には物々交換と変わらぬものと見なすことに等しい。

だが、経済学の原点となるこの物々交換の神話、商品交換は物々交換から生まれてきたものであり、商品交換は貨幣によって迂回された物々交換に過ぎないとする神話は、歴史的な事実としても、³⁾論理としても妥当ではない。物々交換から、やがて貨幣を使った商品交換が発生してきた、などという物語は、成り立たないのである。そのような事実は見出されず、また論理的にも混乱している。

それでは、市場における商品交換が支配的な交換様式として定着する前には、何が主要な交換様式だったのか。物々交換ではないとすると、何なのか。贈与が——しばしば双方向的な贈与が——一般的であった。これは、経済人類学には常識に属することだろう。この分野の古典中の古典は、マルセル・モースの「贈与論」である。これは、北米先住民、ポリネシアやメラネシア等の民族、そして古代社会の儀礼的な贈与を比較研究した論文である。これらの無文字社会では、儀礼的な贈与の社会的な意味は大きく、極論すれば、人々は——とりわけ男たちは——贈与のために生きている、と言ってもよいほどである。実際には、市場に国家も存在しないような原初的な共同体でも、商品交換の原始的な形態のように見える「物々交換」のとき交換が行われていることは確かである。しかし、ほんのわずかに観察するだけで、この種の交換から商品交換が発生してきたわけではない、ということが分かる。

第一に、無文字社会の原始的な「物々交換」は、一般には、後に会うことがほとんどないような——少なくとも継続的な関

係を築くつもりがないような——よそ者との交流として執り行われるのが一般的である。物々交換から、貨幣を用いた商品交換が発生するという神話は、当事者たちの間で継続的で頻繁な交換が必要だった、ということ为前提にしている。とすれば、原始的な物々交換が、そのまま商品交換へと直結しないことは明らかであろう。

第二に、原始的な物々交換はしばしば、儀礼的な贈与と似たやり方で執り行われる。交換に先立って、双方の陣営で饗宴^{きょうえん}がモヨオ^①されたり、双方が遊戯的・演技的に攻撃性をひけらかしたりするのだ。これらは、まさに儀礼的な贈与においてなされることからである。ということは、物々交換自体がしばしば、贈与のコンテクストの中でなされているのである。つまり、それらも広義の贈与^④である。

(大澤真幸『クリティーク社会学 経済の起原』より)

問一 傍線部①「人々は、交換の媒体としての貨幣を発明した」とあるが、それはなぜか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

11。

- ① 商品交換を迂遠化した物々交換の状態から、交換様式をさらに成熟させる必要があったから。
- ② 文明が進んだことで、自給自足の生活ができず、物々交換を行わなければならなくなったから。
- ③ 物々交換をするのではなく、商品として購入するほうが、仕組みや論理がシンプルであるから。
- ④ 自分が欲しいモノを、それを所有している他者との物々交換によって手に入れたと思うから。
- ⑤ 物々交換しようとする主体同士の欲望が一致するという可能性は、現実的には極めて低いから。

問二 空欄 A に入る最適なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① 羅針盤
- ② 潤滑油
- ③ 青写真
- ④ 処方箋
- ⑤ 登竜門

問三 傍線部(2)「神話」とあるが、これはどういう意味か。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。

解答欄は 。

- ① 根拠もないのに公理のように信じられている事柄という意味。
- ② 実証されていないが、歴史的な事実である事柄という意味。
- ③ 亜流ではなく独自のものとしてつくられた事柄という意味。
- ④ 俗世間の出来事ではなく聖なる世界における事柄という意味。
- ⑤ 長い時間かけて民衆の中に語り継がれてきた事柄という意味。

問四 空欄 B に入る最適なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① スミスの後塵を拝する
- ② スミスと表裏を成すものである
- ③ スミスの一歩手前にある
- ④ スミスと同じ穴の貉むじなである
- ⑤ スミスと比肩するものである

問五 空欄 、、に入る語句の最適な組み合わせを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|------|
| ① | ア | 供給 | イ | 貨幣 | ウ | 需要 |
| ② | ア | 貨幣 | イ | 供給 | ウ | 需要 |
| ③ | ア | 供給 | イ | 需要 | ウ | 物々交換 |
| ④ | ア | 貨幣 | イ | 供給 | ウ | 物々交換 |
| ⑤ | ア | 供給 | イ | 需要 | ウ | 貨幣 |

問六 傍線部(3)「論理としても妥当ではない」とあるが、筆者はなぜそのように指摘していると考えられるか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① 貨幣を用いた商品交換は、近代的な国家が存在しないと成立しない仕組みや論理であるから。
- ② 貨幣を用いた商品交換は、継続的な交換を前提とするが、原始的な物々交換はそうではないから。
- ③ 貨幣を用いた商品交換は、見返りを求めない一方的な贈与から発生してきた交換様式であるから。
- ④ 貨幣を用いた商品交換は、迂遠化した物々交換ではなく洗練された物々交換であるから。
- ⑤ 貨幣を用いた商品交換は、ポリネシアなどの無文字社会では行われていた事実があるから。

問七 傍線部(4)「広義の贈与」とあるが、それはどういうことか。その説明として最適なものを選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 17。

- ① 原始的な物々交換は、一見すると贈与のように思われるが、結局は物々交換と何ら変わらないということ。
- ② 原始的な物々交換は、一方が攻撃的に振る舞っているように見えるが、実はそれは演技であるということ。
- ③ 原始的な物々交換は、交換するだけでなく、儀礼的な贈与と同様のやり方も執られているということ。
- ④ 原始的な物々交換は、そのまま商品交換と直接結びつくことがない、単なる贈与でしかないということ。
- ⑤ 原始的な物々交換は、儀礼的に行われているだけであって、実質的には意味をなしていないということ。

問八 本文の内容に合致するものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 18。

- ① 贈与が支配的な交換様式から商品が支配する交換様式へと転換するメカニズムが解明された。
- ② 無文字社会では、双方向的な贈与よりも一方的な贈与の方が社会的、儀礼的な意味を持っていた。
- ③ 近代的な経済学はアダム・スミスから始まると言われるが、実はアリストテレスからであった。
- ④ 北米先住民、ポリネシアなどの民族は早くから貨幣によって迂回された物々交換を行っていた。
- ⑤ 商品交換が行われる以前には、主に物々交換ではなく贈与という交換様式が執り行われていた。

問九

①「ジユウジ」、②「モヨオされたり」の波線部と同じ漢字を含むものをそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は①が 、②が 。

① ジユウオウに活躍する

② バリにザイジユウする

③ ユウジユウ不断な性格

④ ジユウライの学説が覆る

⑤ ジユウコウな語り口

① サイゲンなく続く

② フウサイがあがらない

③ サイミン術にかかる

④ 争いのチュウサイに入る

⑤ 制服のサイスンをする

三

次の各問に答えなさい。

問一 誤字を含むものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- ① インターネット上で他者を中傷して裁判沙汰になった。
- ② 官僚制の構造的欠陥を批判した人類学者が昨年急逝した。
- ③ メディア環境の変化で近代的主体の融解が生起している。
- ④ 地球環境の激変を緩和するための取り組みが始まった。
- ⑤ 気概のある人を奮立たせて、社会を変革してもらおう。

問二 (1)、(2)について、誤った読み方のものをそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は(1)が

(2)が

- | | | | |
|-----|--------------|-------------|------------|
| (1) | ① 先途(せんず) | ② 築港(ちっこう) | ③ 撰生(せつせい) |
| | ④ 破竹(はちく) | ⑤ 糾弾(きゅうだん) | |
| (2) | ① 詰む(つむ) | ② 弄ぶ(もてあそぶ) | ③ 絡む(からむ) |
| | ④ 携える(たずさえる) | ⑤ 損ねる(すねる) | |

問三 () に入る言葉が【 】にない文を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 24。

【あびる・くう・さける・たたく・ちらす】

- ① 憎まれ口を ()。
- ② とぼちちりを ()。
- ③ くもの子を ()。
- ④ 露命を ()。
- ⑤ 人目を ()。

問四 傍線部の言葉の使い方が適切でない文を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 25。

- ① 人事異動により、だらけた雰囲気に活を入れる。
- ② 痛くもない腹を探られて、犯行を自供した。
- ③ 生徒たちは緊張のあまり鳴りを潜めている。
- ④ 派閥争いに巻き込まれ、冷や飯を食わされた。
- ⑤ 歯が浮くようなおべんちゃらを言うな。

問五

傍線部の言葉の使い方が適切でない文を一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

26

- ① 借金がなし崩しにされ一銭も戻らなかった。
- ② ちようど今が物事を始める潮時だと感じた。
- ③ 彼の話はあまりにばかばかしくて噴飯ものだ。
- ④ みんなの前で褒められるのはとても面はゆい。
- ⑤ 場所柄をわきまえて発言をするべきだった。

問六

対義語の関係になっていないものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は

27

- ① 発散 ⇄ 収束
- ② 名誉 ⇄ 恥辱
- ③ 末尾 ⇄ 陣頭
- ④ 希釈 ⇄ 濃縮
- ⑤ 迂回 ⇄ 直行

問七 同義語の関係になっていないものを一つ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は 。

- | | | | |
|---|----|--|----|
| ① | 遺憾 | | 残念 |
| ② | 看取 | | 察知 |
| ③ | 機敏 | | 迅速 |
| ④ | 高慢 | | 横柄 |
| ⑤ | 危惧 | | 放念 |

問八

①、②のカタカナの部分と同じ漢字を使うものを、それぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。解答欄は①が

29

②が

30

① 内憂外カン

- ① カン波が襲来する
- ② 地盤がカン没する
- ③ トネルがカン通する
- ④ カン部に薬を塗る
- ⑤ 私生活にカン渉する

② 栄枯セイ衰

- ① 収穫の最セイ期を迎える
- ② 運セイを見てもらう
- ③ セイ米機を使用する
- ④ 乱セイを生き抜く
- ⑤ 一セイに歌い出す